

タイトル	著者名	内容紹介
この夏の星を見る	辻村 深月	コロナ禍による休校や緊急事態宣言、経験したことのない事態の中で大人以上に複雑な思いを抱える中高生たち。しかしコロナ禍ならではの出会いもあった。哀しさ、優しさ、あたたかさ。人間の感情のすべてがここにある。
図書館のお夜食	原田 ひ香	開館時間が夕方7時～12時まで、「夜の図書館」で働くことになった乙葉。そこは本の博物館のような図書館だった。乙葉は予想外の事件に遭遇しながら「働くこと」について考えていく。
第169回 芥川賞受賞作 ハンチバック	市川沙央	井沢釈華の背骨は、右肺を押し潰すかたちで極度に湾曲している。両親が遺したグループホームの十畳の自室から釈華は、あらゆる言葉を送りだす。
第169回 芥川賞候補作 それは誠	乗代 雄介	修学旅行で東京を訪れた高校生たちが、コースを外れた小さな冒険を試みる。その一日の、なにげない会話や出来事から、生の輝きが浮かび上がり、えも言われぬ感動がこみ上げる名編。
第169回 直木賞受賞作 極楽征夷大將軍	垣根 涼介	やる気なし、使命感なし、執着なし…混乱する時代に、意志を欠いた人間が、何度も失脚の窮地に立たされながらなぜ天下をとってしまったのか?謎に包まれた初代将軍・足利尊氏の秘密を解き明かす歴史群像劇。